

著書紹介 朝日祥之,原山浩介 編『アメリカ・ ハワイ日系社会の歴史と言語文化』

著者	朝日 祥之
雑誌名	国語研プロジェクトレビュー
巻	6
号	2
ページ	61-62
発行年	2015-10
URL	http://doi.org/10.15084/00000792

朝日祥之, 原山浩介 編

『アメリカ・ハワイ日系社会の歴史と言語文化』

2015年3月 東京堂出版 A5判 290ページ 6,500円+税



朝日 祥之

1. 本書の出版の経緯

本書は、人間文化研究機構の国際共同研究「日本関連在外資料の調査研究」において、「ハワイと北米に渡った日系移民音声資料を用いた社会言語学的研究」と「南北アメリカの移民関係資料ならびに移民社会に関する研究」の二つのチームが展開した調査・研究活動を通じて見いだした成果をまとめたものである。この二つのチームでは、今日においてあまり注目を集めていない、しかし今後、より研究対象として精査が必要になるであろう資料を中心に、調査を行ってきた。対象とした資料の多くは、日系人に関わる写真資料や音声資料であった。写真資料については、「移民史」の観点において通常は中心的なものとして取り扱わない種類のもの、例えば他のエスニックグループとの交流を示すものや、スポーツなど文化活動に関わるものなどを中心に資料調査を行った。音声資料については、言語学的な関心を一つの起点として、オーラルヒストリー（口述史）の音声記録についての調査を行った。その際、かつて録音されていないながらも、再生が困難であることなどから、研究者などによるアクセスがあまり為されていないものも対象とし、言語学的な分析のみならず、歴史学や社会学等の関心からの資料へのアクセスに道を開くことも検討課題としている。本書は、移民をめぐる研究においてどのような論点を提示できるのかについて、言語学や歴史学の立場からまとめられた論考である。

2. 本書の構成

本書は、七つの論考で構成される。全体を二部構成とし、アメリカ・ハワイ日系社会における言語文化、歴史を扱う五つの章と、資料の整備、資料を活用した事例研究に関する二つの論考を収める。具体的には以下の通り。

序論 「日本語」から出発する移民史（原山浩介・朝日祥之）

第1章 19世紀末から終戦期にかけて活躍した Japanologist と日本語の役割（朝日祥之）

第2章 ハワイの日系／沖縄系社会にみられる日本語の特徴（白岩広行・平本美恵）

第3章 労働者向け新聞『ハワイスター』の時代

—太平洋戦争後のハワイにおける思想状況の断面（原山浩介）

第4章 オーラルヒストリーからみた戦後の活動史の再整理

ーハワイ日系人抑留者の戦時強制収容体験（秋山かおり）

第5章 A Steward by Happenstance: 25 Years of Japanese American Public History and Collections
（偶然が生み出した執事：日系アメリカ人をめぐるパブリックヒストリーとコレクションの25年）（Brian Niiya）

資料の現場から

- 1 「埋もれた声」のデジタルアーカイブ化（八十島乙暢・山崎芳男）
- 2 雑誌『植民』植民問答—移住希望者のQ&A（中谷智樹）

3. 本書の内容

本書は「日本語」を起点に議論を組み立てている。ここには、言語学的関心を背景にした研究を内包しているということのほかに、これまでの歴史学を中心とした分野における研究で手薄であったテーマや方法論の問題に、「日本語」の資料を手がかりに率直に向き合ってみようという意図がある。日本語によって残された資料、それも書き残されたものばかりでなく、音声資料を丁寧に調べることによって日系社会の持つ社会像をより多角的に描くことができると考える。本書は、その試みとして、日本語の変容、歴史をめぐる社会運動、歴史認識の変容と連動するオーラルヒストリーの変容、社会史の豊富化を取り上げた。移民研究によくありがちな、複数の専門分野の研究者が自身の専門分野の研究を行い、それを「寄せ集めた」形で成果を刊行するのではなく、既存の研究の枠組みを超えた研究領域の開拓を目指した「総合研究」の成果として位置づけたい。

朝日 祥之（あさひ・よしゆき）

国立国語研究所時空間変異研究系准教授。博士（文学）（大阪大学）。国立国語研究所情報資料部門研究員、研究開発部門研究員を経て、2009年10月より現職。

主な著書・論文：『サハリンに残された日本語樺太方言』（明治書院、2012）、『ニュータウン言葉の形成過程に関する社会言語学的研究』（ひつじ書房、2008）、『改訂版社会言語学図集』（共編、秋山書店、2010）。

社会活動：NWAV-AP 運営委員、Asia Pacific Linguistic Variation Editorial Board Member.